広報 南国
編集発行
南国市役所
電話(代表)451番
印刷所
安岡印刷所

広報は……
……みんな
読むもの……
……つくるもの

才入出三億二百六十一万円
35年度当初予算上程さる

南国市の三十五年度当初予算才入出三億二百六十一万円はさる十二日開会した第四回定例議会に他の二十一議案とともに上程され、二十三日に可決の予定。

以下主なものをあげる—単位千円。

〔才入〕市税八五、五五六（市民税二二、六五四、固定資産税四一、五四一、軽自動車税二、二六八、たばこ消費税九、四三二、電気ガス税八、五三二）地方交付税八五、〇〇〇、公営企業及び財産収入一三、一〇〇、財産売り払い代金九、八四一、負担金九、八四一、使用料及び手数料一、八八九、国庫支出金七四、六八一（国庫負担金五〇、七一二、同補助金二三、八三四）県支出金九、五九三、（県負担金一、一四〇、県補助金七、六二三、県委託金三二九、県貸付金五〇〇）、寄附金一、五〇一、市債一四、四〇〇、雑収入七、〇四六、

〔才出〕議会費八、七〇三（議員報酬四、一一六、職員給九二三、諸手当一、三六九、旅費九〇〇、需用費五七八、納付金一五八、研修費二一八、諸費三九、交際費四〇〇）、市役所費五三、二三八（職員給二九、四〇七、旅費七二〇、諸手当一一、八三〇、需用費三、六六五、納付金四、六〇〇）、消防費四、九六四（報酬八〇八、旅費七八一、需用費三、一七五）、土木費二九、六六八（道路橋梁費七、四七三、河川費二、〇一〇、災害復旧費九〇〇、下水道費五〇〇）、失業対策事業費一八、七八五、教育費六五、七八四（教育委員会費二五二、事務局費五、五〇二、小学校費一四、五二一、中学校費三六、〇九九、諸費六二三、産業教育費二一七、幼稚園費九一四、定時制高校費八一二、高等女学院費一、三五五、社会教育費一、六九〇、同和教育費一、〇七〇、諸費二〇〇、公民館費二、五二三）社会及び労働施設費八六、六六九（生活保護費五三、九二九、身体障害者福祉費一四九、戦傷者援護費五七、厚生費一、九七八、児童福祉費一、五一四、公園費五〇〇、保育所費二五、七一一、私立保育所費一、五八八、福祉諸費三三八、国民年金九〇二）保健衛生費五、二六〇（保健費一、四三八、清掃費九六七、伝染病予防費九七二、結核予防費一、一〇〇、狂犬病予防費四八、衛生委員会費四一二、諸費三二二）産業経済費八、二九七（農業委員会費四、〇四九、産業振興費三、六九二、農山漁村建設綜合対策費三一二、農地対価徴収並に同行施管理費九、農業委員会特別事業費二三三、新市町村施設整備事業費一、五六〇）、財産管理費二、〇七五、（財産管理費二、〇七五）、統計調査費五二二、選挙費一、一八五（選挙管理委員会費一、〇八八）、公債費一七、四四六（市債償還金八、二一一、一時借入金元利償還金九、二三四）、諸支出金一五、七一九（繰出金六、五四一、委託事務費二三五、徴税費六、一二三、過年度支出金二、五〇一、諸支出金三一七）、予備費二、一八三

標識で交通安全
一区青年団交防自治会が

会は、ことしになつて千八百円を投じ、カーブなどの危険箇所三カ所に交通安全を呼びかける標語入りの標柱三本を建てて、スピード違反などのないように呼びかけている。

千五百万円
市内の葉タバコ

市内の葉タバコまきつけは二月十日すぎまでに終つた。

生産コスト引下げのため、共同育苗も始められた。作付面積百六十四町歩で耕作者は計六百四十五人。反当平均九万円以上が予想されており、締めて千五百万円くらいの水揚げになる見込み。（写真は苗床づくり）

浜田農機退職金
共済へ加入

上橋で水田除草機を製作している浜田農機製作所（従業員五人）はこのほど、中小企業退職金制度に加入した。

これは市内のトップで、従業員は希望を持つて働いている。

この制度について

事業主は付近の金融機関へ毎月掛金を払い込んでおけば、退職金の支給はすべて中小企業退職金共済事業団がやつてくれる。

掛金は免税であり、結果的にいうと事業主は千円だけ支出すれば、二千円分の掛金を納めることができる勘定になる。

加入できる事業主は、常用の従業員数百人以下であつて、加入する場合は特別の従業員を除き、全員加入させなければならない。

掛金は一人一カ月二百円～千円までの百円きざみ。

四国銀行後免支店に申込金と掛金を払い込んだ。

大企業のようによい待遇ができないので従業員を求めにくく、腰を落ちつけて仕く気分も起りにくい。

そこで、中小企業にも大企業に近い退職金制度が国の援助で生れた。

南国郵便局
後免郵便局は南国市が発足したため、三月一日から、南国郵便局と改めた。

果樹同志会事業計画決まる

南国市果樹研究同志会連合会の三十五年度事業計画は次のとおり決定し設備の増強、園地の改善、技術向上に乗り出すこととなつた。

本部事業計画

○国県、市の事業による機械開墾の基礎調査に全面的協力する○単位研究同志会の組織を強化○農業研究諸団体との組織的連絡の確立○一月下旬研究発表会を開催○巡回現地研究会開催○果樹技術員設置

カンキツ部事業計画

○共同育苗圃設置を推進○部会を開催、経営、技術の講習会開催（年六回六カ所）○果樹園の耕土培養事業推進○園地整備事業推進○共同利用施設の設置推進○モデル園設置落葉部事業計画

○部会の開催○モデル園設置○講習講話会開催○老木園の改植奨励○出荷反省会開催、（一月下旬）○耕土培養事業推進

衛生委員会を組織

二百二十人を一丸とする、南国市衛生委員会は二月二十二日組織され、正、副会長、代議員を選び規約を決定した。

〔会長〕竹村虎治（長岡）
〔副会長〕宮本芳子（後免）
坂本富七雄（瓶岩）、入交照（香長）

久礼田婦人学級の研究発表
文部省研究指定

久礼田婦人学級は三十四年度の文部省研究指定となつていたが、さる六日久礼田小学校で、その研究発表を行なつた。

発表の内容は①学級の運営のしかた（スライド利用）②学習のすすかた（八ミリ映画利用）③感想、④全討議など大きい参考となるものばかりだつた。

一斉共同防除決まる
本年の水稲病害虫対策

稲作の安定を期するための「高知平野水稲病害虫共同防除対策協議会」は二月十九日結成され、事務局を南国市産業経済課内においた。注意事項次のとおり。

（防除計画表4面）

共同防除に対する主なる注意事項次のとおり。

○防除責任区域を明確にし隣接部落と防除間隙ができないようにする。

○冬季にアゼなどの芝焼きをし、苗代、早稲と中晩稲標草、そ葉、飼料園などはなるべく集団化する。

○播種期、植え付期などについて防除計画に支障をきたさないように注意し、早稲、中稲前作、レンゲ雑草などのすき込み講水は、それぞれの第一回防除の前日までに完全に終らせる。

○防除作業を容易にするため、通路をとつた植え方をし苗代防除はとくに必要であるから別途に防除する。

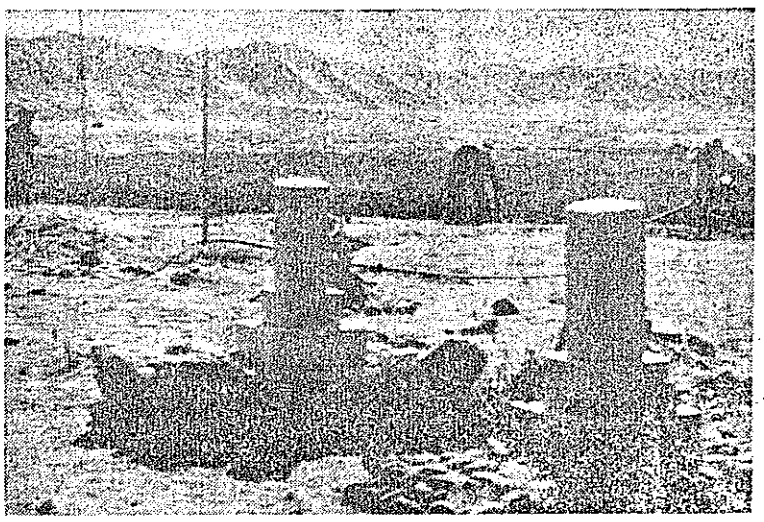
○飼料園の防除はとくに必要だからテップ剤、ダイアジノンを使用し、家畜の安全をはかる。また防除前から刈草、サイレージ、乾草などを準備しておくこと。

○防除は本部から指令または警報を出して誤りのないようにする。期日は必ず厳守し、天候その他やむをえない場合のほかは、初日から始める。

灯火の上では原始の生活を送る、瓶岩地区の隣に。近く待望の電灯がつくことになつたのはなんといつても朗報だ。▼その朗報はまだある。市内二百町歩を越す果樹の適地を機械で開墾し零細農家をうるおし、二、三男にも安定した職業を得させるということだ。▼前者の場合は瓶岩地区の市農業委員田村英実氏の、なみなみならぬ努力も実現への大きいポイントとなつた。▼そしてその文明の光りなき悲惨さが、高知新聞によつて報道された直後、機を みて市当局の活動となり、直接中央で実現運動がなされ、近く百余万円の工費で実現することとなり、同じ市民でありながら、報われざるを嘆いて久しい同部落の人たちに、たとえようもないよろこびは来たわけだ。〝最良の年〟ということばはないよことしの倩の人たちにそつくりあてはまるかの観がある。▼後者の場合初めは〝途大な計画〟のそしりをまぬがれなかつたものだが、これも関係官庁に直接陳情して中、四国中本年度唯一の機械開墾指定地域となつた。▼古いことわざに〝なせばなる〟ということがある。組織を問わず、個人を問わず建設的な目的があるならドンと当つてみることだ。そして熱意さえあればものごとは成就するはずだ。▼いまの〝市民の声〟は市当局にとつては聞きたくないことが多い。しかし批判、苦言は市永遠の計を願つてのことだから以上のような二つの事業に当るときのように今後もドシドシ声を生かしてもらいたい。

こだま

やよいの浜改田



瓶岩地区樋（釣瓶ふくむ）部落は原子時代というのに無電灯地区の悲哀をかこつていたが、市当局の運動で近く待望の電灯がつくことになり、部落民はよろこびにわいている。（写真は薄暗いランプのもとで病人の世話をする主婦）

樋部落に文明の灯
年来の夢かなう

瓶岩地区樋（釣瓶ふくむ）部落は原子時代というのに無電灯地区の悲哀をかこつていたが、市当局の運動で近く待望の電灯がつくことになり、部落民はよろこびにわいている。（写真は薄暗いランプのもとで病人の世話をする主婦）

同部落は瓶岩の中心部にある農協から約六キロ奥地で瓶岩川上流にあり面積五百二十町歩、戸数十四（六十七人）。

ここに亀岩から現在の幅二メートルの市道が布設されたのは明治四十年で、大正年間になつて六キロに延長された。

そしてさる三十三年に農協から私設電話がひかれたことにより、いくらか文明に浴するようになつた。

部落の人たちは遠く百五十年前から住みつき、約十戸のうち三、四戸が離郷したが、昭和二十三年に開拓者がはいつてからにぎやかになつた。生活はほとんど農業でたてられ、それに続いて製炭、日雇いが収入源である。

部落の生産状況次のとおり。

〔耕地〕田六十反（反収平均二石）畑二百反（麦、イモ、キビ、コウゾ、ミツマタを作る）。ほかに原野採草地二百反。

〔山林〕三百六十八町歩で製炭原木、スギ、ヒノキの植林であるが、八十%は部落外のものの所有。

馬一頭（農耕用）、牛二頭、ニワトリ四十羽、ヤギ一頭、発動機一台、自動脱穀機大一台、小一台モミスリ機一台、石油ランプ四十五個（一戸一カ月の石油使用量約四升）

一戸当りの年間収入は平均十五、六万円できびしい生活である。

なお小学生十一人で六、五キロ離れた瓶岩小に通学し中学生四人は八キロ離れた久礼田中学校に通つている。

ほかに幼児十人があるが、幼稚園が遠くて通園できぬ状態で、身体障害者も二人いる。

全国に放送
NHK婦人のつどい

全国に録音放送の市婦人会連合会、市教委共催のNHK婦人のつどいはさる一日後免野田小学校講堂で行なわれた。

議題として「農村の明るい人間関係をつくる」ことが取り上げられ、次々に活発な意見が出され、重松敬氏（教育評論家）の講演も行なわれた。

貧しい人に衣類を贈る
吉本氏建設課長

下野田の公文香代さん（14）＝香南中学校一年＝同恵さん（12）＝後免野田小学校五年生の姉妹は三月始め南国警察署に「貧しい人々に贈つてもらいたい」と衣類（二十一点）を届けた。

市役所建設課長は小笠原助役が兼任していたが、二月十六日、旧香長村助役の吉本太志男氏が就任した。

なお市役所課長級の旧町村所属別は香長六、後免四となつている。（教育委員会は旧後免二、旧香長一）

小籠に郵便局
開局は五月一日

市内小籠に無集配郵便局を設置する計画は、旧後免町当時決定していたが、郵政省では五月一日開局を目指し、二月十九日に起工した。

工費八十万円で建坪約十七坪。職員は局長以下三名で局長には東川郵便局＝香美郡＝主事の大西利秋氏が内定している。

なお無集配だから郵便物の集収と配達は、これまでどおり南国局が受持つわけ。

市職組新役員

南国市職組は二十七日、次のとおり役員を改選した。

組合長＝太郎田勝、副組合長＝垣内英伸、西山三重、書記長＝川田正雄、会計＝国松栄

市連青結成

南国市連合青年団は二月二十八日結成され、次の役員を選任した。

団長＝高橋学、副団長＝野村伸義、西内末子